

# ネットワーク特集によせて



常務取締役

原 説秀

Nobuhide Hara

## IP電話とビジネスモデルの変革

常時接続高速ブロードバンドネットワークの普及に伴い、IP電話がインターネットキラーアプリケーションの一つとして脚光を浴びています。IP電話の普及は、これまで100年以上続いてきた固定電話の世界を大転換する『通信ビッグバン』とも言える革命です。ハーバードビジネススクールのクレイトン・クリステンセン教授の著書『イノベーションのジレンマ』の言葉を借りるならば、ネットワークはこれまでの『持続的技術』から、低価格、単純、小型で使い勝手がよい『破壊的技術』による一大変革が進行しています。すなわちコンピュータ技術とインターネット技術が融合したシステムへの進化です。ネットワークも電話網、電信網、放送網、コンピュータ網等のサービスごとの個別ネットワークからIP技術のもとで相互に接続・連携したサービス共用型ネットワークへと進化しつつあります。基本的には個別ネットワークの時代は『1ネットワークで1サービス』というビジネスモデルでしたが今後は『1ネットワークで複数のサービスを提供する』というビジネスモデルになります。すなわち、このサービス共用型ネットワークが、いわば、IP情報共通基盤になりその上では通信、放送、情報処理等これまで別々に提供されていたサービスが容易に連携できるようになります。このように、情報のデジタル化とIP情報共通基盤が情報通信融合の本質です。IP電話はこの情報通信融合のアプリケーションコア技術のひとつです。現時点では『IP電話＝格安音声電話』というイメージが先行していますが、今後、IP電話は新たなリアルタイムコミュニケーション文化を創造し、事業構造やビジネスプロセスの変革をもたらすでしょう。具体的な例として、IP電話はCRMなどの業務アプリケーションと連携し、ワークス

スタイルやコミュニケーション手段の変革をもたらします。一方、IP電話の普及は、過渡的には通信事業者の収益構造への影響、ユニバーサルサービスへの対応や既存電話網の維持費用負担などの課題があります。これらは、IP電話やIP情報共通基盤が真に社会インフラとなるために超えなければならない重要な課題です。

## IP電話革命と沖電気の取り組み

今後、音声だけではなく、映像コンテンツサービス、エレクトリックコマース等、多彩な情報サービスがIP情報共通基盤のもとに融合します。これにより、通信コスト削減はもちろんのこと、ビジネスの生産性向上やQuality of Life (QoL) の向上を実現できます。たとえば、音声とデータを統合したアプリケーションを利用することにより、外出先でも在庫や売上データを見ながらWeb会議を進めるなど、ユビキタス環境におけるリアルタイムコラボレーションが可能となります。“端末も電話機”という概念から、IP情報共通基盤につながるあらゆる情報端末でリアルタイムコミュニケーションサービスを実現できる世界が必ずや到来します。このような世界ではさまざまな情報端末が接続され、ユビキタスネットワークの中で音声・映像・データが統合されたサービスが提供されるようになります。このとき、もっとも懸念されるのはセキュリティや個人のプライバシーの問題です。たとえば、セキュリティ攻撃による音声通信の妨害や盗聴の危険性が新たに発生します。弊社は、これらの課題に対しても常に最適なソリューションを提供し、真にIP電話やIP情報基盤が社会インフラとなるべく鋭意研究開発にも取り組んでいます。さらにセキュリティ対策だけではなく音声品質の一層の向上を狙いとした『e音(いいおと)』

IPフォン™』を提供することにより、更にIP電話の応用範囲を広げ、電話相談、外国語レッスン、IP放送など、これまでIP電話が積極的に利用されていなかったサービスの実現、市場創出を積極的に図っていきます。また、IP電話サービスとWebとの更なる連携を図り、企業ユーザーの顧客情報や経営情報の利活用、リアルタイムコミュニケーションの活性化に貢献していきます。弊社は、このような狙いのもとで『コンピュータ技術とネットワーク技術の融合による高い付加価値をもつサービス』を実現したいと考えています。具体的にはIP電話技術をコアに、ブロードバンドアクセス、ワイヤレスLAN、ITS/テレマティクス、コンテンツ配信、ネットワーク家電などと融合するソリューションを創出し『e社会®』の実現に貢献していきます。

### 信頼できる情報社会へ

さて、昨年の10月12日より18日まで7日間スイス・ジュネーブ市のPALEXPOにてITUテレコムワールド2003が開催されました。ITUテレコムワールドはITU（国際電気通信連合）が4年ごとに開催する展示会です。今回のフォーラムでのテーマは『新ミレニアム』（A new Forum for the New Millennium）で、テレコムビジネスの再生を目指し、スタートラインに立った21世紀最初のITUテレコムワールドでした。フォーラムのプレナリーセッションでは弊社社長篠塚勝正がセッションテーマである『新収入源（New sources of revenue）』に対して『ブロードバンドネットワークを基盤とする信頼できる情報社会の構築』と題して講演しました。その中で、高度情報社会のライフラインとなるべき情報通信基盤に対して基本となる指針を示し、現在、充足度がまだ低いセキュ

リティやプライバシーに関する問題を解決し、『信頼できる情報社会』の実現に向けて系統的に投資すべきことを提言して多くの方々の関心を呼びました。

### ネットワーク特集

本ネットワーク特集号では上記基本的な考え方に基づき、当社のネットワークソリューションへの取り組みをご紹介します。具体的には弊社社長篠塚勝正によるテレコム2003フォーラムでの講演論文を筆頭に、情報・通信融合プラットフォーム、IPv6、フォトニックネットワーク、オプティカルアクセスネットワーク、光部品、コンテンツ配信、セキュリティなどへの取り組みを中心にご紹介いたします。21世紀—変化激しいグローバルな競争時代に、弊社はこれまでのプロダクト・システムビジネスのような商品/システムの提供だけではなく、お客様の視点に立ち、お客様のビジネスを成功に導くために何が必要となるかを考えて、最適な解（ソリューション）を提供していきたいと考えています。お客様と弊社が一緒になってビジネスプランを考え事業展開し、共に繁栄していく『共創型ビジネス』が主流となり、お客様のビジネスの成功なくしては、弊社の企業価値も向上しません。弊社はソリューションビジネスの飛躍的な成長を目指して商品開発・ビジネス展開し、お客様にご満足/ご安心をお届けしたいと考えます。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

